



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

令和4年11月28日(月)
米代川河川敷伐採木の木炭敷設 編

わがネットワークの「木の香る道づくり」の特徴の一つは、地域の木材を活用して秋田県立大学木材高度加工研究所（以下、木高研）の研究成果や新たな試みを提案・見える化しながら進めていることです。この秋からは、米代川河川敷に生じる支障木を炭にして活用しようという実験を新たに始めました*。

この日は、ひと月ほど前に製作した土嚢袋 19 袋分の炭を、能代国道維持出張所長・澤畑さんが予め用意して下さった同事務所門扉前の緑地帯に埋設しました。時節柄、時雨れたらイヤだなあと考えていましたが、澤畑さんも木高研の栗本先生も日ごろの行いがとても良い方だったらしく、青空の下、1 時間ほどで作業を終えることができました。

今回の実験では、木炭が土壌中にあることで雑草の生育にどのような影響があるかを観察します。木炭を埋設することで雑草が生えてこなかったり、あるいは生育を抑制することができれば除草経費を削減することができます。木炭として活用することで、支障木の有効活用や除草にかかる経費削減につなげられないか？がねらいの一つです。能代河川国道事務所のご協力をいただきながら、来年度も進めていく予定です。

また、今回敷設した木炭はおおよそ 47kg(1 袋約 2.6Kg・水分無し)でした。炭素率(89.5%)を掛けると、そこに含まれる炭素量は 42Kg と算出されました。これを二酸化炭素に直すと 154 Kg-CO₂と計算されます。米代川の伐採支障木 4m³ から 154kg の二酸化炭素を固定、事務所前の土壌中に隔離したことになります。こうした具体的な基礎データを集めることも目的にしています。

このような実験は初めてのことで、どうなるのか分からないことが多いのですが、「まず、やってみよう」の精神で取り組んでいます。能代河川国道事務所の前を通る時には、立ち止まって木炭効果を観察してみてください。

*令和4年10月30日の活動レポート参照

文： 渡辺 千明



木炭の入った土嚢袋の横にスコップが用意され(上)、試験地が 4m×1m に整地されていました(下)。



試験地の西側半分(2m×1m)を深さ 25 センチほどまで掘り下げ(上)、木炭全量を入れました(下)。



試験地全体に土をかけ、いよいよ実験開始です。植物がどのように生育していくのか、していかないのか。どんなことが起きるのか、来春から定点観測していく予定です。暖かくなるのが楽しみです。